

- | | |
|---|--|
| <p>1 石川地域づくり表彰
受賞団体・個人の取り組み</p> <p>特定非営利活動法人 竹の浦夢創塾
NPO 法人ぽっかぽか／小松市健脚推進ボランティアの会
特定非営利活動法人志ネット・石川／向峠智隆氏</p> <p>2 地域づくり総務大臣表彰
受賞者の取り組み</p> <p>大野長一郎氏／数馬嘉雄氏</p> <p>3 石川地域づくり塾の報告</p> <p>研修成果報告会
平成 22 年度 受講者ヘインタビュー</p> <p>4 地域づくり団体全国研修交流会</p> <p>第 28 回 地域づくり団体全国研修交流会に参加して</p> <p>5 地域づくり活動の紹介</p> <p>TEAM はくさん 21／チーム NAGISA
加賀まれびと交流協議会／白山市地域づくり塾</p> <p>6 大学と地域が連携する地域づくり</p> <p>地域貢献型学生プロジェクト推進事業</p> | <p>2</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> |
|---|--|

いしかわ地域づくり 往来

[www.pref.ishikawa.jp/
shinkou/dukurikyou/](http://www.pref.ishikawa.jp/shinkou/dukurikyou/)

発行日／平成23年3月

発行／石川地域づくり協会

発行者／石川地域づくり協会事務局 事務局長 大霜 祥栄

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

石川県企画振興部地域振興課内

TEL. 076-225-1312 FAX. 076-225-1328

vol.9

I s h i k a w a L o c a l R e v i t a l i z a t i o n A l l R i g h t



一里野高原での健康づくりワーク (TEAM はくさん 21)

1-a 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

石川県では、住民主体で地域の活性化に取り組む団体・個人を顕彰する「石川地域づくり表彰」を実施しています。平成 22 年度受賞団体・個人の表彰式は、11 月 7 日に加賀市で開催された研修交流会「いしかわ地域づくり円陣 2010」で行いました。ここでは、受賞した団体・個人の取り組みを紹介します。

特定非営利活動法人 竹の浦夢創塾(加賀市)

団体部門 大賞

竹の浦館は昭和 5 年に北前船主であった大家、広海両家の郷土の発展と振興を願う意志により寄付された当時の木造技術が色濃く残る校舎です。その木造校舎は、平成 15 年 7 月 20 日に、国、県、市の「やすらぎの空間整備事業」の助成金を頂き、改装し「やすらぎの交流空間施設“竹の浦館”」として生まれ変わりました。両家の心を受け継ぎ、やすらぎと潤いある歴史や伝統に支えられた豊かな文化と自然に育まれた地域において、都市と農村の広域的な交流を図る活動を進める拠点として整備されました。

- 1 ふるさとの味・発酵食品（へしこ、味噌、酢、たくわんなどの漬物など）の製造のための「加工室・調理室」
- 2 地元の特産物や農産物、竹の浦館謹製の発酵食品の販売のための「特産販売所」
- 3 多くの人が交流できる（音楽会、絵画展、書道展、講演会など）「多目的ホール」
- 4 小枝や、竹や折り紙などの材料での工芸、草木染めなどが体験出来る「工芸体験教室」
- 5 研修や体験学習の出来る「研修室」
- 6 アウトドア体験の出来る「キャンプ場」

これらの施設で、グリーン・ツーリズムの体験の館として、そば打ち教室、豆腐づくり教室や四季の伝承

料理（へしこ、漬物、粽、笹餅、かきもち）や、各種体験教室（小枝細工、竹細工、蜜蝋細工）、地産地消をモットーに「キッズキッチン」などを行い、物販では、四季に応じた野菜市を開催して、多くの方々にご来館頂き、賑わいを見せています。

また、へしこ、たくわん、味噌など発酵食品の製造販売も行っています。地元の発酵に携わっている方々と一緒に、「加賀醗酵食文化研究所」を一昨年立ち上げ、東京農業大学教授の小泉幸道先生の指導のもと、筍酢、梨酢を製造し販売もしています。

イベントとして、漬物コンクール、柿の葉寿司コンクールを毎年開催し、多くの方々に参加頂いております。

毎年、地元の酒、醤油、漬物など、発酵食品に携わっている方々や、東京農業大学名誉教授の小泉武夫先生が名誉会長をしている、「食に命を懸ける会」の方々などの協力を得て、「沸く沸く発酵うまいもん市」を開催し、発酵食文化の大切さを PR しています。

今回、石川地域づくり表彰において大賞を頂き、大変感激しています。今後も地域の人達と一緒に、この受賞を励みとして「地域づくりの活動」になおいつそう努力して行きたいと考えています。

季節の地元食材を使った親子料理教室「キッズキッチン」



石川地域づくり表彰表彰式（石川地域づくり円陣 2010 にて）



1-b 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

NPO法人ぽっかぽか(七尾市)

団体部門 奨励賞

私たち NPO 法人「ぽっかぽか」は、平成 18 年度におもちゃを通して遊びの楽しさを伝えたいと、仲間が集まり活動を始めました。最初の頃はおもちゃも少なく会員手作りのおもちゃなどを持参して、放課後児童クラブや特別支援学級などに出かけていき子どもたちと遊ぶなど移動おもちゃ図書館活動をしていました。少しずつ活動も周知されてきて、行政や企業、地域の方々からの支援で、おもちゃを沢山そろえることができ、平成 21 年度から無料でおもちゃの貸し出しや修理を始めました。これらの活動が子どもや子育て中の方々から大変喜ばれたことがきっかけとなり、子育てしやすい環境づくりのお手伝いができればと平成 22 年度には、障害児親子の交流体験活動や子どもの不用品譲り市の開催、研修会などでの一時預かり保育などに取り組みました。

「ありがとう、助かったわ、また来てね」などの言葉に励まされ、微力ではありますが、子どもたちの笑顔の応援団として今後も活動を続けていきたいと思ひます。

おもちゃの貸出を行う「おもちゃ図書館」は、市民から「経済的に助かる」という声が寄せられる。県内外からの視察も多い



小松市健脚推進ボランティアの会(小松市)

団体部門 奨励賞

本会は平成 18 年に設立され、現会員数は 320 人です。私達は高齢者が要介護状態になることを防ぐため、地域の教室などで転倒予防体操の「こまつ健脚・健腕・健ゆび」体操や健口体操、ミニゲーム、唱歌合唱などを教えています。また、研修会を年 4 回実施し、会員の資質向上を図っています。

組織面では、活動部、研修部、広報部を持ち、広報部では年間 2 回広報誌「貯筋通信」を会員、参加者向けに発行し、現在は 9 号を数えています。また、会員有志により「健脚劇団」を結成し、「脳卒中の早期発見」をテーマとした寸劇を老人会などで公演しています。

さらに「健脚川柳大会」では、教室参加者や会員から川柳を募集し、入選作には表彰を行っています。平成 21 年度は 387 句、平成 22 年度は 371 句の多くの応募があり体操の PR にも役立てています。

こうした私達の活動が、市の介護予防事業に大きく貢献していると自負しています。

私達は、地域に根付き、地域の皆さんと共に手を携え、元気な高齢者が 1 人でも多くなるように今後も一層と取り組んでいきたいと思ひます。

健脚劇団では、寸劇を通して介護予防の啓発



1-c 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

特定非営利活動法人 志ネット・石川(白山市)

団体部門 奨励賞

ほめられた。イヤ、奨励というのは『すすめはげますこと』と辞書にあるから、もっとやれと背中を押されたことなのか。法人履歴の賞罰欄に書けるではないか。ほんとにうれしい。

我が志ネット・石川はこの三月十日で満七歳。認知症の方々とのミニデイサービスを主事業に、介護講座開催や、福祉職を目指す学生の実習受け入れを行ない、『モノを忘れても望む暮らしが続けられる』地域づくりに意を注いできた。平成 21 年度の地域づくり塾では、能美市を主会場に孫世代への認知症講座担当者の育成を目的に研鑽し合った。

魅力ある学校にするためにと寺井中学校では開催に前向きであり、辰口中学校では、ハンセン病・エイズ・いじめ等の人権を学ぶ流れの位置づけで認知症講座に結んで実現できた。両校とも繁多な日程の中に組みこんで頂いたことに感謝でいっぱいである。昔も今も地域の中心に学校があり、子らは育つとうれしい思いに満たされた…。

脳はおだてにのりやすい。私達も奨励賞にのり、継続開催の道がつく迄、働きかけてゆく。

平成 21 年度、孫世代への認知症講座を実施する講師育成を目的とする講座の報告会



むかいとうげ ち りゅう 向峠 智隆氏(能登町)

個人部門

昔々、頭に角を持ち体中を漆で塗り固めた猿の様な怪物がいた。怪物は「猿鬼(さるおに)」と呼ばれ、川辺の洞窟を根城にしている悪さを働いて村人を苦しめるので、知恵を絞った女神が筒矢で退治した。

能登町にはこの猿鬼伝説に由来する地名があちこちに残っていて、猿鬼を祀る岩井戸(いわいど)神社もある。昭和 62 年に地区の公民館長に就任したことを機に、猿鬼にこだわり続けてきた。

この年から始めた「猿鬼歩こう走ろう健康大会」は今年で 25 回目。猿鬼が暴れ回った地域を歩いたり走ったりするユニークなマラソン大会で 1,500 人が出場する。永井豪先生にキャラクターを描いてもらっている。平成 5 年には能登各地の猿鬼伝説を調査し、その記録を研究書にまとめた。平成 13 年には 8 回目となる「全国鬼サミット」を町で開催した。

私は観光ボランティアガイドも務めている。四半世紀にわたる取り組みにより、伝説を体感したり学んだりしようと町外からも訪れる人が増えてきた。今回の受賞を励みに、これからも体の続く限りこの伝説を通して地域の魅力を語り伝えていきたい。

岩井戸神社社叢で猿鬼伝説をガイド



2 地域づくり総務大臣表彰受賞者の取り組み

地域づくり総務大臣表彰(総務省主催)は、全国各地で、それぞれの地域をより良くしようと頑張る団体、個人を表彰しています。平成 22 年度は、石川県から 2 個人が受賞しました。それぞれの取り組みをご紹介します。

おお の ちょういちろう 大野長一郎氏(珠洲市)

個人表彰

大野氏は 23 歳の時、父の炭やき工場を受け継ぎ、専業で炭やきに取り組んでいる。高付加価値型の木炭として、茶道用の「お茶炭」の生産に力を入れようと考えたが、能登には材料となるクヌギが少ないことに気づいた。それだけでなく、これまで里山資源を有効に活用し営まれていた製炭業や製塩業などの衰退により、里山の荒廃が進んでいた。そこで、里山を再生し炭やきを今後も続けられるよう、荒廃地にクヌギの植樹を始めた。しかしながら、植樹作業は準備も含め人手が必要で、一人での活動に限界を感じていた。

一方で大野氏は 2007 年から金沢大学「能登里山マイスター」養成プログラムを受講し、製炭業が大気中の CO₂ を吸収・固定化し、温暖化防止に貢献することを自らの研究で学んだ。

そうした中で、里山の重要性や炭やきの役割を伝え、植樹活動への協力を広く呼びかけた。その結果、地元ボランティアや NPO 法人、学生など、多くの方々の協力を得て植樹活動を行い、これまでに約 4,000 本のクヌギを植えることができた。

今後は、日本の伝統文化である茶道の関係者も巻き込んだ活動に発展させていきたいと考えている。

日本海をバックに植樹活動参加者全員で



かず ま よし お 数馬 嘉雄氏(能登町)

個人表彰

能登は昔から清酒をはじめ、いしり、なれずし、味噌、醤油、干物など発酵食品が豊富であり、能登杜氏に代表される発酵に携わる技術者集団をも有する発酵文化の拠点である。能登を更に魅力ある地域にするため、「醸しの里・能登」をキーワードに発酵を切り口に能登を発信しようと試みている。

能登の発酵を象徴するモノとして地元特有の素材である「いしり(ISHIRI)」のブランド化に取り組み、国内外での展示会への出展やいしり料理の普及・開発に努めた。中でもニューヨークで開催した展示会や和食レストランでのいしりディナー等では高評価を得、ニューヨークへの輸出にも目途がたった。

能登はモノを醸すだけでなく、総持寺祖院や中居・金蔵の寺院群、そして古くから三十三観音巡礼の地でもあり、人々の“心を癒す場”でもある。「醸しの里・能登」では、モノ・心を醸す場としての「能登」の最大の魅力は「能登で暮らす人たち(能登人・のとびと)」であると考え、能登人の紹介や能登人との交流の中から“心のやすらぎ”を感じてもらうツーリズムの推進に力を入れている。

世界料理サミットでは「いしりポテトスープ」を振る舞った



3-a 石川地域づくり塾の報告

平成 22 年度、地域づくり活動の担い手育成のための研修会として
7 月から開催してきた「石川地域づくり塾」。
3 月 6 日、石川県青少年研修センターで、水野雅男コーディネーターを講師に、
研修成果報告会が開催されました。今回は、その様子を報告します。

研修成果報告会

研修成果報告会では、開講プログラムのワークショ
ップに始まり、県内の地域づくり団体・県外の先進事
例研修から学んだことや、受講してどんな変化があっ
たか、今後の意気込みなどについて、平成 22 年度の
受講者 5 人が発表を行いました。
また、開講プログラムでそれぞれが設定した「地域
づくり塾を通しての決意」をもとに、研修のアウトプ
ットとして何が明確になったのか、「ビジョン」（自分の地
域をどうしたいか）と、「そのために自分はなにをするの

か」（どうやって一步一步進んでいくかを具体的に示す）を発表
しました。
そのあと、参加していた石川地域づくり協会コーデ
ィネーター、運営委員のみなさんからのアドバイスな
どがあり、学んだことを今後どのように活かしていくの
か、方向性の整理、ヒントを得る場にもなりました。
平成 22 年度の受講者 5 人は、これから、石川地域
づくり協会の事業をはじめ、全県的な地域づくり活動
に関わっていきます。



平成 22 年度 石川地域づくり塾日程

と き	場 所	内 容	講 師
1 7/3(土)・7/4(日) 終了	石川県青少年 総合研修センター	■ 開講式 ■ ワークショップⅠ「研修の到達目標」■ ワークショップⅡ 「課題解決や目標の設定」■ ワークショップⅢ「企画とは何か」 ■ ワークショップⅣ「企画を実現させるには」	森山 奈美 氏・濱 博一 氏
2 8/8(日) 終了	こまつ賑わいセンター	■ 地域づくり活動団体に学ぶ(現場の活動に参加)	赤須 治郎 氏
3 8/30(月)・8/31(火) 終了	東京都「ルポール麹町」	■ 地域づくりコーディネーター研修に参加(先進地事例を学ぶ、 全国の地域づくり実践家と交流、新たなネットワークづくり)	森山 奈美 氏
4 9/18(土)～20(祝) 終了	熊本県人吉市 鹿児島県鹿屋市	■ 先進地視察「地域づくりの原点を学ぶ」	人吉市「ひまわり亭」代表取締役 本田 節 氏 柳谷自治公民館長 豊重 哲郎 氏 濱 博一 氏
5 10/16(土) 終了	能美の里山ファン倶楽部	■ 地域づくり活動団体に学ぶ(現場の活動に参加)	高峰 博保 氏
6 11/7(日) 終了	加賀市「竹の浦館」	■ 石川地域づくり円陣に参加	石川地域づくり協会コーディネーター
7 11/12(金)・13(土) 終了	青森県青森市	■ 地域づくり団体全国研修交流会に参加(先進地事例を学ぶ、 全国の地域づくり実践家と交流、新たなネットワークづくり)	赤須 治郎 氏
8 3/6(日) 終了	石川県青少年 総合研修センター	■ 研修成果報告会	水野 雅男 氏

3-b 石川地域づくり塾の報告

平成22年度 受講者ヘインタビュー

わくわくネット・はくい
酒井 哲也 さん

Q 受講してどんな影響がありましたか？
A 傍観者から関係者という意識が出て
きました。自分なりの信念を持って、
自己満足でも良いから取り組んでいくこ
との大切さを学びました。

Q 来年度の受講生にひとこと
A いつも「なぜ?」「どうして?」という意識を持って臨めば、
また違ったモノが見えてくることもあります。楽しんで参加
してください。



能美の里山ファン倶楽部
村本 志朗 さん

Q 受講してどんな影響がありましたか？
A ○よかったこと＝県外のいろいろな
事例や元気な方々を知ることができ
ました。
○決意＝平成 23 年度、動きます。

Q 来年度の受講生にひとこと
A やる気があれば、きっと役立つと思います。



石川ツーリズム研究会
藤橋 由希子 さん

Q 受講してどんな影響がありましたか？
A 自分の役割についてよく考えるよう
になりました。そして役割分担という
ことも。チームワークについて意識できる
ようになったのはこの塾での学びが少な
からずあったと思います。

Q 来年度の受講生にひとこと
A 来年度の内容はさらに精度が上がって充実していると思い
ます。私ももう一度受けたい！



白山商工会
白山ろく賑わい創出実行員会広報委員
安本 知子 さん

Q 受講してどんな影響がありましたか？
A 地域づくりは誰もが参加できる地域
愛の表現であり、地域を愛し、仲間
を愛し、そして共に時を刻むこと、その
ものが地域づくりであると知り、深く感動しました。

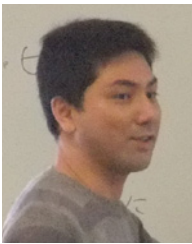
Q 来年度の受講生にひとこと
A たくさんの人に出会って、たくさんの感動に出会って下さ
い。その中から、更なる自分らしさを見つけ、もっともっと
躍動的な活動につなげてほしいです。



notojima oine 計画情報研究所
村田 充 さん

Q 受講してどんな影響がありましたか？
A 県内外の様々な地域で様々な取組
を通して、地域づくりをしている方々
と知り合うことができた。この方々との出
会いを一過性のものとせず、ネットワー
ク化し、持続していく。

Q 来年度の受講生にひとこと
A この塾は、とても厳しいです。でも、とても温かい方々です。
自分の活動の方向性を見失った時、様々な助言をください
ます。でも、最終的に決めるのは自分です。頑張ってください。



平成 23 年度も石川地域づくり塾を 開催する予定です

平成 23 年度の石川地域づくり協会総会（5 月頃）に
て、平成 22 年度石川地域づくり塾受講者によるフリー
トーキングで塾の紹介を実施したいと考えています。
平成 23 年度の塾については内容が決まり次第、石
川地域づくり協会ホームページでお知らせします。
みなさんも塾生として学んでみませんか？

地域づくり団体全国研修交流会

平成 22 年 11 月 11 日～ 13 日に第 28 回地域づくり団体全国研修交流会が青森県で開催されました。全国研修交流会は、全国各地で地域づくりに取り組む方々が情報交換や議論を行い、今後の活動に活かすことを目的としています。ここでは、平成 22 年度石川地域づくり塾の一環として参加した、村田充さんのレポートを紹介します。

第28回 地域づくり団体全国研修交流会に参加して

村田 充

前夜祭、全体会

地域づくり塾の塾生として、今回初めて青森での全国大会に参加しました。前夜祭は、豪華なホテル内に、つゆ焼きそばやせんべい汁、大間のマグロにバラ焼きなどの屋台が並び、ご当地料理をいただきました。そして、ねぶた祭りのはねとの大乱舞や津軽三味線の大合奏。青森の方々のエネルギーとおもてなしの心は、私の想像をはるかに超える華やかなものでした。

分科会

青森市から十和田市へ移動。十和田バラ焼きゼミナールの事務局、竹ヶ原氏から、昨年の全国 B 級グルメ選手権において、8 位となった「十和田バラ焼き」による地域おこしについて解説していただきました。印象に残った点として、①職種が様々な 30～40 代の若者が「バラ焼きを愛し、全国に発信していく」という、一つの目的に向かって、熱意を持ち、強く結束している。②十和田のバラ焼きは、地元産食材を使わず、ルーツも十和田市ではなく、隣の三沢市といわれている（諸説あるが）。③ゼミナールとバラ焼きを提供している店舗が良好な関係を継続している。の 3 点でした。

私は、地域おこしや地域づくりとは、地元の伝統文化や食材を取り入れることが大前提であると思っています。しかし、演出方法や情報発信手段を工夫し、構成員が結束して知恵を出し合うことによって、地域を全国に知ってもらい、地域に人が帰ってくる、やってくるシクミづくりが可能であることを知りました。そして、バラ焼きを全国に発信しているゼミナールの方々と提供している店舗が、自分たちの役割を認識し、分担がきちんとできていると感じました。

石川地域づくり塾生として参加

赤須治郎・協会コーディネーターから、全国大会に参加するにあたり、事前、開催中、事後の 3 回にわたって、課題や視察に臨む視点を教授いただいたので、緊張感を持って参加しました。私にとっての収穫は、今回の視察で、他の方々の事例から自分が何を学び、どう活かし、実践するかが重要であるという認識をもったことです。今後、私が印象に残った 3 点を自身の活動に取り入れ、想いをカタチにしていきたいと思います。

全体会のオープニングアトラクションは津軽三味線



分科会懇親会。コンセプトは「バラ焼きによる市民革命」（「バラ」焼きとフランス革命の話であるベルサイユの「バラ」をかけた）



バラ肉と大量のタマネギを、しょうゆベースの甘辛いタレで味つけ、鉄板で焼く「バラ焼き」



地域づくり活動の紹介

ここでは平成 22 年度に石川地域づくり協会に新たに参加してくれた 4 つの団体の活動を紹介します。

チー ム TEAMはくさん21 (白山市)

誰もが願うこと、それは元気で活気あふれる地域で、楽しく健康で過ごすことだと思います。「霊峰白山」の豊かな自然に感謝し、その中で人々がふれあい、明るく健康的な地域づくりを目指そう、と平成 21 年 1 月、パーク獅子吼内に誕生したのが、自然と健康の地域づくり団体「TEAM はくさん 21」です。

過疎化や少子高齢化が急速に進む時代をむかえ、「これからは自分たちの健康は自分たちで守り、自分たちのまちは自分たちで創ろう」を合言葉に、「小さな事でも出来る事から」と、白山・手取流域の地域に住む人達をはじめ、いろんな趣味の会やボランティア活動をしている人たちが中心となり活動を始めました。

目指すテーマが大きく広範囲で、時間もかかるとはありますが、会の基本コンセプト「健康とコミュニティ」をベースに「健康・環境・観光・地域」を活動テーマとし、会員一人ひとりが無理せず出来る範囲で、自由に気軽に行動するように心がけています。

設立当初の目標通り順調に推移している半面、急速に会員が増え活動分野が拡大した為、今後の課題は、スタッフの不足や会の運営維持に伴う経費等どのようにクリアしていくか、チャレンジして行きます。

県下全域から仲間が増え、平成 23 年 1 月現在、200 名を超える多世代の会員が加入している



チー ム NAGISA (羽咋市)

羽咋市の活性化の為に、観光による町興しを目的に有志により平成 21 年 10 月に結成する。

羽咋市には、金沢市に次ぐ沢山の観光資源があり（渚ドライブウエー：世界の宝、国宝間近の妙成寺、本物の宇宙船等々）、当面は各種ミニツアー実績を重ねてチームの実力を付ける事とする。昨年 4 月羽咋の観光情報発信の為、ブログ「nagisatour（http://blog.livedoor.jp/nagisatour/）」を開く。

今年度は、次のミニツアーを実行した。

- ① 能登羽咋の古刹“リフレッシュ”ミニツアー
（参加者 12 名、永光寺境内散策、五老峯参拝、座禅体験、本堂重要文化財鑑賞、監寺講和、手打ちそば賞味）
- ② 白鳥“北帰行”と古民家での郷土料理ミニツアー
（3 回実施、参加者各 10 名、邑知潟白鳥の里での白鳥の群れの観察、古民家高澤醸造宅で囲炉裏を囲んでの郷土料理）

4 回のツアーを開催して、参加者の反応やアンケートを見ると①②共に予想以上の好評を得ました。特に②の次回も参加したいとの多くの声には、チーム皆大変喜んでいきます。羽咋市の観光資源には十分な魅力があると云う事をメンバー皆が実感できた事が昨年の最大の成果と思います。貴方も一緒に感動してみませんか。只今、メンバー募集中!!

羽咋市市民活動支援センター ☎ 0767-22-9979

邑知潟白鳥の里。羽咋の様々な資源でミニツアーを開発、PR、実施していく



5-b 地域づくり活動の紹介

各地域づくり団体の連絡先については、石川地域づくり協会 HP をご覧ください。

加賀まればと交流協議会

加賀まればと交流協議会（通称：まればと会）は、加賀市内の有志 30 名によって平成 22 年 6 月に結成されました。「まればと」は「客人」「旅人」を意味し、加賀市の交流人口拡大による地域活性化を目的としています。メンバーには交流人口拡大の恩恵を受けやすい観光業や飲食業にとどまらず、製造業、農業、行政関係者など幅広い異業種が集まりました。まればと会には 3 つのプロジェクトがあります。

- ① **かがやきプロジェクト**／「加賀」と「焼き」を「輝き」に掛けて地元の食メニューを PR。平成 22 年 12 月からスタートし、81 店 88 メニューを展開中。独自イベント開催のほか、金沢でのイベントへの参加や広報媒体を利用した PR などを積極的に行っています。
- ② **広報プロジェクト**／加賀の魅力を内外に PR。現在のはかがやきプロジェクトを広報面で支援する活動を行っています。
- ③ **サイクルプロジェクト**／自転車による地域活性化を目指す。現在サイクリングツアーの開催に向けて準備を進めています。

いずれも平成 26 年度の新幹線金沢開通を見据え、加賀への誘客と地元のおもてなし力の向上を目的としています。知名度、認知度の点ではまだまだです。今後もプロジェクトの浸透に向けて邁進する所存です。

昨年 12 月に実施した、「かがやきプロジェクト TAKE OFF !」イベント



白山市地域づくり塾(白山市)

白山市地域づくり塾は、平成 19 年度からの 3 年間に白山市と法政大学で実施してきた遠隔授業「地域づくり塾」の修了生が中心となって、平成 22 年 1 月に発足した団体です。「白山市およびその周辺の地域づくりや地域活性化について、会員同士が交流し学習し合うと共に、地域と協力して課題の解決に向けて活動を実践し、地域社会に貢献する」ことを目的として活動しています。

塾ではこれまでに毎月の勉強会実施のほか、白山市の「吉野工芸の里」整備構想企画提案や元気づくり支援員の派遣等、活動を拡げてきています。元気づくり支援員では旧鳥越村 3 町（上野、下野、若原）の合同事業「なんかやろまい会」の運営をサポートし、昨年 10 月には軽トラ 26 台出店の「桜街道軽トラ市」の初開催を支援し、外来 500 名の入場者を集めました。

本年 1 月には、石川地域づくり協会コーディネーターの濱博一氏を講師として、塾設立 1 周年記念公開セミナーを開催し、地域づくりの理念と実践について再確認したところです。今年は市街地活性化や地域コミュニティ、福祉の分野での議論を深め、具体的な活動を実践していきたいと考えています。

昨年 10 月の「桜街道軽トラ市」。様々な地域づくり活動を積極的に応援



6 大学と地域が連携する地域づくり

県と大学コンソーシアム石川は、地域づくりにおいて大学と地域との連携を推進するため、地域課題の解決に取り組む大学等のゼミナールを支援する「地域課題研究ゼミナール支援事業」や、地域貢献活動を行う学生グループを支援する「地域貢献型学生プロジェクト推進事業」を行っています。

地域貢献型学生プロジェクト推進事業

今回で紹介する「地域貢献型学生プロジェクト推進事業」は、毎年、石川地域づくり協会に参加している団体のみなさんや自治体から大学等の学生グループと一緒に取り組みたい活動の提案を頂いており、その数は年々増えています。今後とも、積極的にご提案ください。なお、これまでの取り組みは、大学コンソーシアム石川のホームページでご覧いただけます。

平成 22 年度「地域貢献型学生プロジェクト推進事業」活動一覧

活動地域	高等教育機関名・サークル等名称	活動内容	活動内容の提案団体
輪島市	金沢大学・金沢大学法学類公認サークル 地域ブランディング研究会	地域と大学生の「金蔵ブランド」の立ち上げによる地域活性化	NPO やすらぎの里 金蔵学校
能登町	金沢学院大学・東四柳ゼミナール	能登町柳田地区における歴史・文化の再発見と活用	能登町教育委員会
七尾市	石川県立大学・学生援農隊あぐり	大学生の能登地域における民俗行事参加による地域活性化	どぼんこ・さるたひこ地域協議会
	金沢美術工芸大学・工芸史研究会	美術館におけるガラス工芸の鑑賞と創作を支援するボランティア活動 (石川県能登島ガラス美術館でのガラスアートとの出会い支援プロジェクト)	財団法人 能登島ガラス美術館振興財団
	星稜女子短期大学・安藤ゼミナール	女学生に人気の居酒屋メニュー開発で地域もお店もWinWin (能登の海産物と能登野菜の金糸瓜を使った居酒屋一品料理(おつまみ)の開発と商品化)	七尾市
宝達志水町	金沢星稜大学・金沢星稜大学美術サークル	アートを通して、地域と大学が連携して、過疎化と高齢化が進むコミュニティ(集落)の再生と地域間交流の推進を図り、地域ブランド構築のための基礎的調査に基づく実証活動	—
金沢市	金沢大学・金沢大学放送局 web-KURS	インターネット放送局「金沢大学門前町・学生街ほっとステーション」の設立	—
野々市町	金沢工業大学・CirKit(サーキット)プロジェクト	ITをツールとした地域コミュニケーションの活性化と店舗の活性化	—
白山市	金城大学短期大学部・三浦ゼミ(幼児教育学科)	「山のじいちゃん・ばあちゃん」世代間交流事業 (過疎地域のお年寄りや若い親子の地域間交流による世代間交流のあり方研究)	白山市
小松市	小松短期大学・うららこま探S	うららこま探Sグループを中心とする小松駅前中心商店街まちなか賑わい創出事業 (小松農水産物を使ったスイーツdeまちづくり)	(株)こまつ賑わいセンター
加賀市	金沢工業大学・谷研究室	加賀東谷地区の地域資源を活かした集落づくり (伝統的建造物群保存地区に向けた加賀東谷地区の集落づくりと過疎化対策)	山中温泉ひがしたに地区保存会

美術館におけるガラス工芸の鑑賞を支援するボランティア活動（金沢美術工芸大学）



白山麓地区における高齢者世代と子育て世代の親子との交流会の企画・実施（金城大学短期大学部）

